

「十三」

令和6年度 第2号

<http://www.jyusan-j.tym.ed.jp>

自分で考え、判断し、進んで行動する活力あふれる生徒の育成に向けて

校長 狩野 美智代

「学校って、友達と一緒に、楽しいとかうれしいとか我慢するとかを勉強する場所だと分かりました」これは、コロナ禍で休校になった期間に報道された小学生の言葉です。確か小学4年生の女の子だったと記憶しています。この言葉を聞いて、改めて「学校」の意義について考えさせられたことを覚えています。「うれしい、楽しい」という気持ちや「我慢する」という行動は家庭の中でも経験できることです。しかし、この子が言いたいのは、「友達と一緒に活動するから楽しい」「一緒にがんばることがうれしい」「周りのことを考えて我慢する」ということだと思います。そして、休校の時期に、仲間と共に行う学校での授業や活動が、とても大切なものだと気付いたのでしょう。

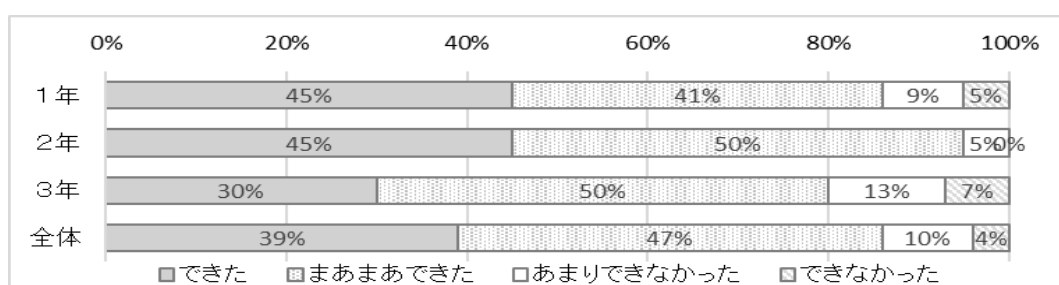
先日、十三中学校は全校生徒で氷見市中学校音楽会に参加しました。音楽会に向けて1年生から3年生が全員で合唱に取り組んだのは、今年が初めてです。5月に曲を決め、まずは一人一人が曲を覚えることからスタートしました。音楽の授業だけではなく、生徒が自主的に朝や昼休みにパート練習を計画し、3年生が1、2年生を指導しながら練習を重ねました。音楽会当日は、広いホールに大勢の聴衆という緊張もあったでしょうが、全員堂々とした顔つきで、がんばって練習してきた合唱を披露することができました。合唱練習は、生徒が「協働して課題を解決する」活動の一つです。うまくいかないことやネガティブな気持ちになることも当然あったと思いますが、自分たちで話し合い前向きに進もうと取り組む中で、共にがんばることの楽しさや喜び、達成感等をしっかりと感じる事ができたと思います。今後もこのような活動を充実させ、今年度の重点目標である「自分で考え、判断し、進んで行動する活力あふれる生徒」の育成に取り組んでいきます。

◆◆◆ 学校評価の結果について ◆◆◆

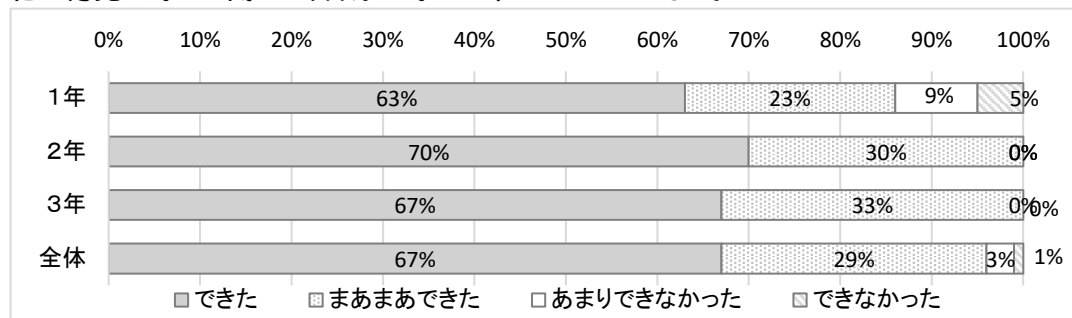
本年度の重点目標「自分で考え、判断し、進んで行動する活力あふれる生徒の育成」を達成するために、次の2つのアクションプランを立てて取り組んできました。生徒のアンケート（6月下旬実施）の結果をお知らせします。

アクションプラン1 主体的に学ぶ生徒の育成

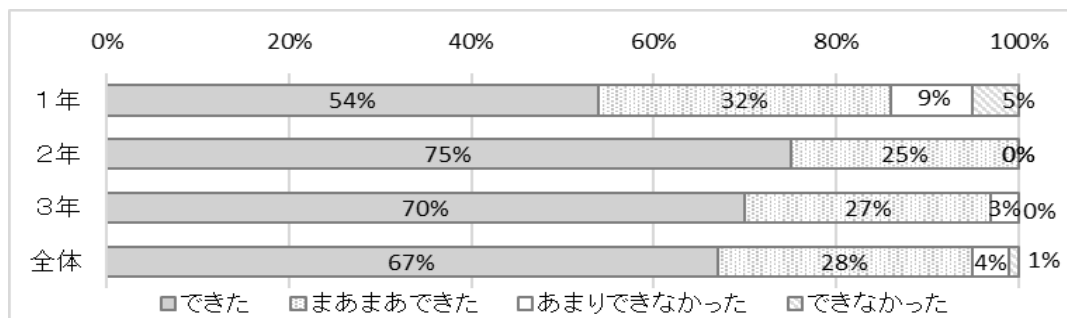
授業では、ペアやグループ等の学習形態を工夫することで話し合い活動を充実させるとともに、生徒一人一人が課題意識をもちながら、主体的に自らの学びを深める授業づくりを行ってきました。また、タブレット端末等のICTを活用することで、生徒自らが自分のペースで学習を進めたり、振り返りの時間を確保したりしながら、自己調整力を高められるよう工夫してきました。その一方、『授業で「分かる」「できる」』と実感できない生徒もいます。授業では生徒一人一人に寄りそい、つまづきをしっかりと捉えるとともに、家庭学習の方法等を具体的に示すなどしていきたいと思います。

【学校評価アンケート（生徒）の結果】**1. 授業の中で、自分の考えをもち、進んで発表することができた。**

2. 他の意見や考えを聞いて、自分の考えを深めることができた。



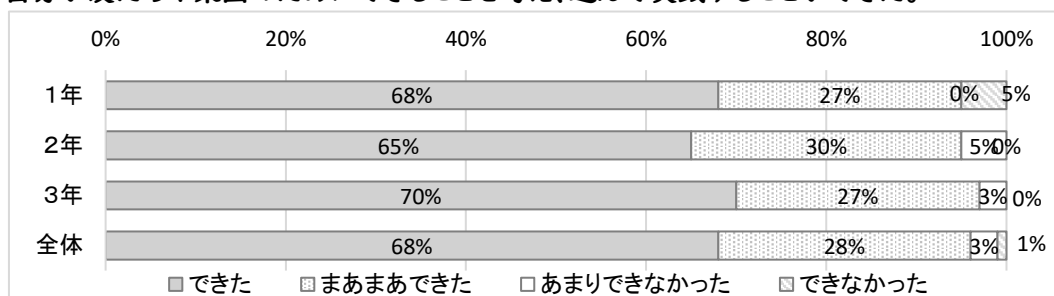
3. 授業で「分かる」「できる」と実感できた。



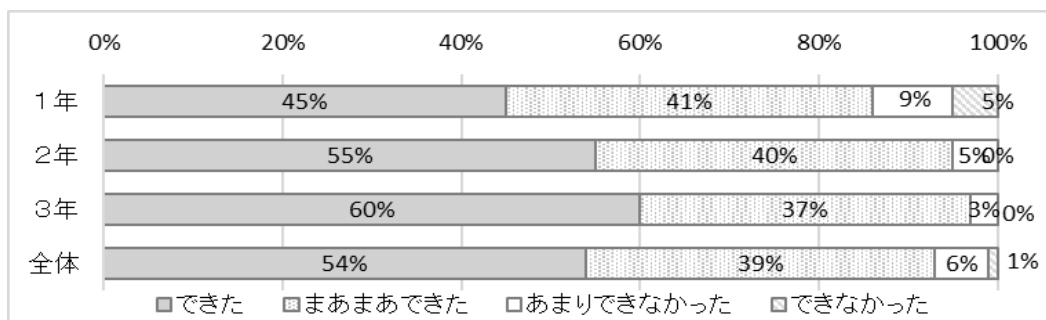
アクションプラン2 認め合い、高め合う生徒の育成

学級の係や当番活動、生徒会活動等、様々な場面で自らの役割を果たすことで、集団への所属感や自己有用感を感じられた生徒が多くいました。2学期も運動会や文化活動発表会等の学校行事の中で、互いのよさを認め合いながらさらに高め合える集団となるよう、支援していきたいと思います。

1. 自分が友だちや集団のためにできることを考え、進んで実践することができた。



2. 集団の向上のために役に立つことができた。



〔3年国語〕



〔小中連携あいさつ運動～生徒会執行部～〕